



# JAPIC NEWS

<http://www.japic.or.jp>

JAPIC

JASDI

40 JAPIC

2002

DB2002 7

11

11

No.146

12

14

15

## 《最近の話題》

# 医薬品規制区分データベースの作成

JAPIC 添付文書部門部長 太 田 福 子

平成 13 年度の厚生科学特別研究事業「**医療用医薬品の安全性・有効性を確保する上で適切な医薬品分類の在り方に関する研究**」を実施しましたので、概要を報告します。

**目的：**本特別研究は、医療用医薬品を対象として有効性・安全性等の多角的な観点から、医師の処方箋によってのみ販売すべき医薬品の分類の在り方について検討を行う上で必要な資料となる、医薬品規制区分データベースを構築することを目的に行われたものです。

**研究の背景：**「JAPIC NEWS」の読者の方々には言うまでもないことと思われませんが、医薬品の分類には、販売等に関する分類、承認・規格等に関する分類、保管管理・乱用防止等に関する分類があります。医療用医薬品と一般用医薬品の分類は、医薬品の承認審査を重点的・効率的に進める観点から通知上定められたものであり、法律上には規定されておられません。医療用医薬品は、医師によって使用されまたはこれらの者の処方箋もしくは指示によって使用されることを目的として供給される医薬品であり、医師等が疾病の治療に使用することを前提に、有効性・安全性を既存薬と比較考慮して審査されているため、使用上の注意、効能・効果等は医師、薬剤師等の医療関係者向けとなっています。一方、要指示医薬品は、耐性菌を生じ易い、重篤な副作用が発生し易い等の観点から、専門知識を有しない者により非科学的に使用されることの無いよう、医師等の処方箋等の無いものに対して販売してはならないものとして法律上規定された医薬品で、医療用医薬品として承認される際、一定の基準に基づいて指定されています。このように、医療用医薬品は医師等によって使用されまたはこれらの者の処方箋もしくは指示によって使用されることを目的としているにもかかわらず、要指示医薬品以外の医療用医薬品には販売上の規制がありません。従って、医薬品の適正使用を一層推進するためには、医薬品の成分毎に有効性・安全性等の多角的観点から、医師等の処方箋に基づいて販売すべき医薬品の在り方について検討を行う必要があります。しかし、現在流通している医療用医薬品全体について、販売規制を視野に入れて作成された分類データはないため、このような検討を行う上で必要な資料を作成することを目的とした研究を実施したものです。

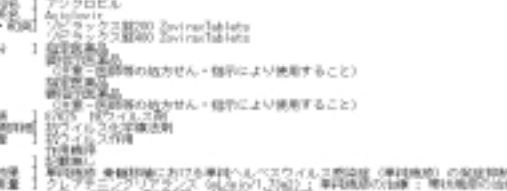
**医薬品規制区分データベースの作成：**JAPIC では会員企業を始めとする企業の方々のご協力により、日本に流通する医療用医薬品の添付文書を網羅的に収集し、活用し易い形のデータベース化を図っており、これを利用して 2,000 成分以上ある医療用医薬品の添付文書に記載されている医薬品規制区分のデータベース(本年 2 月時点で JAPIC が入手した新様式の添付文書 11,900 枚、約 16,000 品目を対象)を作成することができました。

ご参考までに、検索画面、検索結果をお示しします。

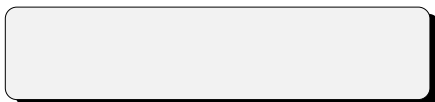
## 檢索結果一覽畫面

[illegible]

## 検索結果詳細画面



| 項目      | 内容                                                                      |
|---------|-------------------------------------------------------------------------|
| 1. 本体   | 本体は、図1に示すように、前面にディスプレイを備え、背面にカメラを備えている。また、本体は、図2に示すように、前面にタッチパネルを備えている。 |
| 2. 電源   | 電源は、図3に示すように、本体の背面に設けられている。電源は、図4に示すように、本体の背面に設けられている。                  |
| 3. 制御部  | 制御部は、図5に示すように、本体の内部に設けられている。制御部は、図6に示すように、本体の内部に設けられている。                |
| 4. 表示部  | 表示部は、図7に示すように、本体の前面に設けられている。表示部は、図8に示すように、本体の前面に設けられている。                |
| 5. 入力部  | 入力部は、図9に示すように、本体の前面に設けられている。入力部は、図10に示すように、本体の前面に設けられている。               |
| 6. 出力部  | 出力部は、図11に示すように、本体の背面に設けられている。出力部は、図12に示すように、本体の背面に設けられている。              |
| 7. 通信部  | 通信部は、図13に示すように、本体の背面に設けられている。通信部は、図14に示すように、本体の背面に設けられている。              |
| 8. 記憶部  | 記憶部は、図15に示すように、本体の内部に設けられている。記憶部は、図16に示すように、本体の内部に設けられている。              |
| 9. 外部装置 | 外部装置は、図17に示すように、本体の背面に設けられている。外部装置は、図18に示すように、本体の背面に設けられている。            |
| 10. 接続部 | 接続部は、図19に示すように、本体の背面に設けられている。接続部は、図20に示すように、本体の背面に設けられている。              |



## ◆文献複写オーダーリングの一時停止のお知らせ

来る8月2日（金）19：00～8月5日（月）10：00まで、8月10日（土）午後（予定）の2回、JAPICのシステム機能調整のため、JIPのe-InfoStreamの「JAPICDOC」他、JAPICデータベースからの複写オーダーリング機能が一時中断いたします。ご利用くださる方には大変ご迷惑をお掛けいたします。文献複写をお急ぎの方は図書館（TEL；03-5466-1827）までご相談下さい。



## ◆「日本医薬品情報学会（JASDI）発足学術大会」に参加して

サッカーのワールドカップ3位決定戦および決勝戦の日（6月29日、30日）に昭和大学上條講堂他において、第5回日本医薬品情報学研究会が開催された。より正確に云えば、29日は上記研究会であり、30日の総会からは学会に格上げされ、日本医薬品情報学会の名称になった。

当・日本医薬情報センター（JAPIC）にすれば、学会の名称の上からも上記学会が一番関係の深いものであり、しかも学会としての初の学術大会でもあるので、関心をもって聴講した。

初日は午後からの開催であり、昭和大学医学部・飯倉洋治教授による特別講演「小児アレルギー疾患の薬物療法と許認可のでディスクリпанシー」から幕開けした。

シンポジウム「テーラーメイド医療のための情報」は2日目に行われた。

望月眞弓先生（北里大学）、山元俊憲先生（昭和大学）の司会により、製薬企業の立場からは宮城島利一氏（田辺製薬）、臨床医の立場からは中島宏昭先生（昭和大学北部病院）、臨床薬剤師の立場からは谷川原祐介先生（慶応義塾大学病院）および倫理学者の立場からは田村京子先生（昭和大学教養部）が、いずれもわかりやすく講演された。

製薬企業からは創薬を軸にしたゲノム技術の基盤づくりの現状が話された。他の分野からは医薬品の適正使用に対応するゲノム情報の活用、適用性などが話され、patient safetyの方向性が示された。

本大会実行委員長の戸部敏・昭和大学教授が指摘されているように、現在、テーラーメイド医療の言葉のみが一人歩きを始めているように感じられるが、テーラーメイド医療に対応した情報のあり方を含め現状認識が必要である。この点において、極めて当を得たシンポジウムであった。

一般講演は16題あり、医薬品の有効性、安全性情報そのものから薬科大学のカリキュラムを軸にした医薬品情報教育のあり方まで、幅広い領域をカバーしたものであった。領域の広さは幅広い情報、知識取得の絶好のチャンスでもあり、本学会の特徴であることも知った。

特に本学会で注目したのは1日目のJASDI-NET討論会、「薬価引き下げに賛成か？反対か？」のディベートであった。

最初に、国際医療福祉大学の高橋淑郎教授から「薬価と病院経営と医療経済を考える」基調講演があった。

引き続き、薬価引き下げの是非論に対し、賛成派（大学病院薬剤部、大学院グローバル・ビジネス研究科、日本薬剤師研修センター、薬学部臨床薬学研究センター、企業から各一名）と反対派（薬局、卸会社、医科大学薬理学講座、製薬会社、県薬剤師会、病院薬局から各一名）に分かれの約2時間のディベートがあった。本討論会の主目的は若手薬剤師の議論、討論に関するスキルアップにあったようであるが、その成果以上に聴講者に対しては薬価の現状、あり方などにつき幅広い考え方を提供してくれたと思われる。なお、本討論会は薬価制度には立ち入らないことが前提であったので、薬価引き下げの是非論の決着がつくようなものではないが、薬価は製薬企業にとっては生命線であるだけに関心が持たれたと思われる。その中で、現行の薬価算定には市販後の安全性情報の評価が加味されていない点の指摘もあった。小さな錠剤、カプセルの中にはクスリの有効性、安全性などの情報がぎっしり詰まっている。市販後の安全性等の情報もその一つであり、それらが薬価に反映されるべき指摘には大いに賛同したい。このようなテーマも本学会の特色の一つになってほしいと思うのは筆者だけだろうか。100名前後の参加者であったが、山椒は小粒でぴりっと辛い式の価値ある学会であった。来年は松本市で開催される予定であるが引き続き参加してみたい気になった。

(JAPIC 常務理事 松本和男)

## ◆「第40回 JAPIC 講演会（主題：医薬品情報の活用）」報告

6月24日(月)、14:00～17:00 日本薬学会長井記念ホールにおいて『医薬品情報の活用』を主題に「第40回 JAPIC 講演会」を開催致しました。

参加者は225名で、製薬企業、卸企業、医療機関等の方々が参加され、広い会場も半分は椅子席だけにして漸く着席できるほど盛会の内に終えることができました。

初めに、望月眞弓先生（北里大学薬学部大学院教授）が、「医薬品情報の提供と活用—情報発信元と受信者へのアンケート調査から—」という内容で、医師、病院薬剤部・

薬局、製薬企業、卸販売業に対して行った調査結果を発表されました。添付文書の利用状況は医師、薬剤師ともよく利用し、また、薬剤師の利用可能な医薬品情報源としての医薬品集では「日本医薬品集」の圧倒的利用状況が報告され、JAPIC としても嬉しい発表でした。

続いて、宮城島利一先生（日本製薬団体連合会安全性委員会委員長）が、「製薬企業の提供する医薬品情報の現状と課題」のテーマでお話しされました。企業の添付文書情報などを搭載する「医薬品情報提供システム」の1日平均アクセス数は6万件を超えているそうです。検索勝手のよさを誇る JAPIC の添付文書情報データベース「NewPINS」ですが、利用数はまだ低いので有効活用の普及を図っていききたいと思えます。

最後に JAPIC の上田慶二新会長（東京都多摩老人医療センター名誉病院長）が、「医師が必要とする医薬品情報」について、添付文書のあり方も含めて話されました。医療事故の60～80%は人為的ミスであり、防止できる事故の80%には人間が関わっている（LT Kohn 他）、医師が必要とする医薬品情報と医師には的確に医薬品情報が伝達されない理由、効率的な伝達、医師は情報獲得のために何をすべきかと、分かりやすい話で好評でした。



今後、時宜にあったテーマで講演会を開催して参りたいと思いますので、テーマについてご意見ご要望がありましたら、お寄せいただきたいと思います。

（業務部 TEL.03-5466-1812）

## ◆「国際モダンホスピタルショウ 2002」報告

7月17日（水）から19日（金）までの3日間、東京ビッグサイト（東京国際展示場）で「新世紀の健康・医療・福祉—安心と信頼を求めて」をテーマに「国際モダンホスピタルショウ 2002」が開催されました。当センターも“JAPIC の添付文書情報”（医薬品適正使用支援システム「ファルマ・アシスト」を含む）の内容で展示参加しました。ホスピタルショウは1974年以来開催されており、JAPIC の参加は1990年から今回で13回目です。284社の出展に、60,900人の来場者を迎え、盛況の内に終えることができました。

JAPIC では医療情報システムゾーンにおいて、職員による添付文書データについての紹介と「ファルマ・アシスト」の実演紹介を行い、あわせて「医療薬日本医薬品集」等の出

版物の展示を致しました。ご質問やご意見を多数頂き、特に「ファルマ・アシスト」の患者情報と添付文書情報を連携させた処方チェックと注意喚起機能については多くの方々から注目されました。

JAPICブースでいただいた貴重なご意見、ご要望につきましては、これからのシステム改良の参考にさせていただきたいと考えております。今後ともご協力下さいますようお願い申し上げます。

(業務部 TEL.03-5466-1812)



**ファルマ・アシストのデモンストレーション**



**盛況の JAPIC ブース**



## ◆新人紹介

### 鶴岡 アリシア ベロニカ



平成 14 年 7 月 1 日付けで日本医薬情報センターに採用となり、医薬文献部門に配属となりました鶴岡アリシア・ベロニカと申します。平成 10 年 12 月にアルゼンチン共和国の国立ラ・プラタ大学薬学部を卒業後、平成 14 年 3 月に千葉大学大学院薬学研究科医療薬学専攻の修士課程を修了致しました。大学院では、抗癌剤の効果に影響を与える生体因子の特定にかかわる研究を行いました。大学院 2 年次では医療薬学実習、主に保険調剤薬局実務実習、病院実務実習および臨床実務実習を経験させていただき、日本における医療現場を身近で経験することができました。アルゼンチン

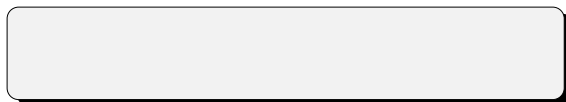
ン共和国では先進国である日本とは違い、経済的な問題もあり、このような研究や実習を実施することはほとんどなく、私にとってはとても貴重な経験となりました。そのおかげで、研究および医療現場ではどのような情報が必要とされるのか、日本ではどのようなデータベースが使われているのか、また情報提供システムのあり方など、これからさらに成長するためにどういうことを勉強しなければいけないか、少しずつみえてきました。

この度、日本医薬情報センターで働かせていただくことになりましたが、膨大な数々の最新情報から各ユーザーにとって必要な情報を採択し、使用しやすい形にもっていくことは大変難しいことがわかりました。

常にユーザーのニーズを考え、正確かつ迅速に適切な情報を伝えることができるよう、これからもどんどん仕事に励んでいきたいと思っています。センターの皆様のあたたかいご指導の下、ご期待に背かないよう一生懸命がんばりたいと思っています。どうぞよろしく願い申し上げます。







## ◆新規「スポットQサービス」開始

7月より JAPIC-Q サービスをご利用の皆様に、新たに付加サービスとして「スポットQサービス」を開始させていただくことになりました。このサービスは、現在登録していただいている検索式以外でも、必要な時に単発的にご利用いただける検索サービスです。以前よりユーザの皆様からのご要望がございましたので、検討させていただいた結果、このたび実現の運びとなりました。サービスの概要は以下のとおりでございますので、皆様に有効にご利用いただければ幸いに存じます。

また、現在登録していただいている検索式による「JAPIC-Q 遡及（そきゅう）検索サービス」もお受けしておりますので、合せてご利用下さい。

今後もユーザの皆様へのサービス向上に努めてまいりますので、ご要望、ご意見などございましたら、遠慮なくお知らせいただきますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

### 1. 「スポットQサービス」

#### 1) 「スポットQサービス」とは

JAPIC-Q サービスご利用者を対象にしたサービスで、現在登録しておられる検索式以外でも、必要な時に単発的にご利用いただける検索サービスです。

#### 2) 料金

| 区 分        | 会 員           | 非 会 員         |
|------------|---------------|---------------|
| 基本料金       | 30,000 円／回    | 50,000 円／回    |
| 手数料（1 成分）  | 10,000 円      | 20,000 円      |
| 検索料金（1 成分） | 2,000 円／1 ヶ月分 | 4,000 円／1 ヶ月分 |
| 提供方法       | プリントアウトのみ     | プリントアウトのみ     |
| 出力料金（原著）   | 1,500 円／件     | 2,000 円／件     |
| 送料         | 400 円／回       | 400 円／回       |

### 2. 「JAPIC-Q 遡及検索サービス」

#### 1) 「JAPIC-Q 遡及検索サービス」とは

JAPIC-Q サービスに登録済の検索式で遡及検索するサービスで、検索結果の提供法に次の2種類があります。

- ① 書誌・キーワードおよび原著
- ② 書誌・キーワード一覧のみ

## 2) 料金

### ① 書誌・キーワードおよび原著

| 区 分        | 会 員           | 非 会 員         |
|------------|---------------|---------------|
| 基本料金※      | —             | —             |
| 登録手数料※     | —             | —             |
| 検索料金（1 成分） | 2,000 円／1 ヶ月分 | 4,000 円／1 ヶ月分 |
| 提供方法       | プリントアウトのみ     | プリントアウトのみ     |
| 出力料金（原著）   | 1,500 円／件     | 2,000 円／件     |
| 送料         | 400 円／回       | 400 円／回       |

### ② 書誌・キーワード一覧のみ

| 区 分        | 会 員         | 非 会 員       |
|------------|-------------|-------------|
| 基本料金※      | —           | —           |
| 登録手数料※     | —           | —           |
| 検索料金（1 成分） | 2,000 円／1 回 | 4,000 円／1 回 |
| 提供方法       | プリントアウトのみ   | プリントアウトのみ   |
| 出力料金（原著）   | 25 円／件      | 25 円／件      |
| 送料         | 400 円／回     | 400 円／回     |

※ Q サービスの基本料金・登録手数料を既にいただいていますので、あらたにはいただきません。

## 3. 検索期間（範囲）

「スポット Q サービス」、「JAPIC-Q 遡及検索サービス」とともに、1996 年以降のデータとさせていただきます。

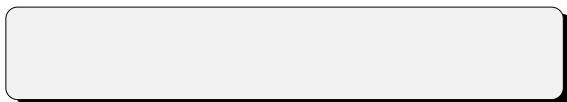
## 4. 申し込み方法

申込書に必要事項をご記入いただき、FAX にて当センター医薬文献部門までお送り下さい。（FAX 番号：03-5466-1816）

## 5. 料金の支払方法

毎月の JAPIC-Q サービスの請求書に加算させていただきます。

（医薬文献部門 JAPIC-Q サービス担当 TEL.03-5466-1821）



## ◆「日本医薬品集 DB 2002 年 7 月版」発刊

昨年 10 月発刊の「日本医薬品集 DB 2001 年 10 月版」の第 3 回データ更新版として、「日本医薬品集 DB 2002 年 7 月版」を 7 月末に発刊いたします。なお、今回の更新は医療薬データに加えて、一般薬データも本年 3 月の一般薬調査により更新いたしました。

価格(税・送料別)は「日本医薬品集 DB 2001 年 10 月版」あるいは「2002 年 1 月版」又は「2002 年 4 月版」をお持ちの方は 10,000 円、「医療薬日本医薬品集 2002(第 25 版)」をお持ちの方は 23,000 円、その他の方は 35,000 円となっております。

### <収録内容>

- ・添付文書情報関係：「医療薬日本医薬品集 2002」(第 25 版) + 6 月までの改訂情報  
「一般薬日本医薬品集 2002-2003」(第 13 版) + 6 月までの改訂情報
- ・製品情報関係：「保険薬事典平成 14 年 4 月総合版」+ 2002 年 7 月 5 日までの追加情報
- ・識別コード情報関係：「医療用医薬品識別ハンドブック 2002」+ 2002 年 6 月までの追加情報

(添付文書部門 日本医薬品集編集担当 TEL.03-5466-1825)

## ◆薬価基準追補収載品目の添付文書のご提供についてお願い

7 月 5 日付けで薬価基準に収載された品目について、該当の製薬会社宛に添付文書のご提供をお願いしております(105 社 410 規格)。よろしくご協力の程お願い申し上げます。

(添付文書部門 TEL.03-5466-1826)





No.146

## ◀ 新着資料案内 ー平成 14 年 6 月受け入れ▶

この情報は JAPIC ホームページ <<http://www.japic.or.jp>>でもご覧頂けます。

お問い合わせは図書館までお願いします。複写をご希望の方は所定の申込用紙でお申し込み下さい。

電話番号 03-5466-1827 Fax No.03-5466-1818

### ー図 書ー

#### 1. 不整脈とつきあうコツ

2002 69p \ 1,000

#### 2. Gelbe liste pharmindex 2. Quartal 2002

MediMedia 2002 2,397p  
36,000

4 (Rp) ATC

( )

#### 3. 情報基盤としての図書館

2002 xi,255p \ 2,800

#### 4. 平成 11 年度既存化学物質安全性点検結果 (概要)

2002 64p

#### 5. MIMS Annual 2001 (Australian Edition) 25ed.

MIMS Australia 2001 1,444p \ 9,870

処方箋用薬をまとめた年刊

治療分類による処方情報で

21

商品名のアルファベット順

( ) / /  
( ) ( )  
TGA /

<http://www.mims.com.au/>

#### 6. 臨床医のための臨床微生物学

2002 237p \ 4,700

**7. 新 GCP 施行後の GCP 関連 Q & A 網羅集**

2002 197p

**8. Vidal 2002 le dictionnaire 78ed.**

Vidal 2002 2,435p \ 28,900

7,000 3,500

Dictionnaire Vidal

(

)

AMM( )

**9. 薬事研究会記録 平成 14 年 3 月 18 日 第 116 回**

2002 66p

**－厚生労働省・製薬団体等資料－**

**1. 新医薬品として承認された医薬品について 平成 13 年 4 月 4 日事務連絡**

2001 2p

**2. 薬事・食品衛生審議会薬事分科会 平成 14 年 6 月 12 日（新聞発表用資料）**

2002 58, 25p

**－WHO から－**

**1. How to develop and implement a national drug policy. 2<sup>nd</sup> ed./83p/2001**

**2. Proceedings International consultative meeting:Global information on traditional medicine. Complementary and alternative medicine practices and utilization / Kobe, JAPAN 19-21 September 2001/60p**

**－その他－**

**1. 薬学の世界をのぞく**

2002 108p



国民に多くの感動を与えたワールドカップサッカーも開催国の務めを果たして無事終了しましたが、虚脱状況を感じる間もなく早いもので一年の折り返しの7月を迎えました。台風が立て続けに発生し、梅雨が明けいよいよ本格的な夏が到来しましたが、会員の皆様にはお元気でお過ごしのことと存じます。

JAPIC も今年度 4～6 月の第 1 四半期を終了しましたが、お蔭様で所期の計画どおりに事業も順調に推移しております。

7 月 1 日には若干の組織変更と人事異動を行いました。新たに新入職員 1 名が加わりました。プロフィールは別掲新人紹介をご覧ください。

7 月 12 日には企画運営会議が開催されました。企画運営会議は、最近の諸情勢・医薬品情報に関する環境の変化を踏まえ、近未来の JAPIC の有るべき姿を幅広く検討・協議し、また、財団運営に関する重要事項を協議することを目的に設置された機関です。このたび、会員制度の現状と今後の対応について、また、添付文書情報について検討するために、それぞれ検討委員会を設置して協議することになりました。製薬企業関係者、医療機関関係者の方が委員として参加し、それぞれの立場から検討していただき今後の方向性を探っていくこととなります。

7 月 17 日から 19 日の 3 日間、有明の東京ビッグサイト（東京国際展示場）で「新世紀の健康・医療・福祉―安心と信頼を求めて」をテーマに「国際モダンホスピタルショウ 2002」が開催されました。

JAPIC は医療情報システムゾーンにおいて“ JAPIC の添付文書情報 ”ということで、“ 医師、薬剤師の現場ニーズに基づき、医薬品に関連する事故を未然に防ぐことを目的とし、毎日医薬品情報内容を更新する機能及び処方内容を自動チェックする機能を併せ持つ新しい医薬品適正使用支援システム ”として開発した「ファルマ・アシスト」をメインに展示し検索実演などを行いました。

お蔭様で多くの方にお運びいただき、システム、データ内容、価格等について熱心にご質問される方もおられ、ますますの反響がありました。

(T.H)



- ・平成14年7月1日から7月31日の期間に提供しました情報は次の通りです。
- ・出版物がお手許に届いていない場合は当センター業務部（TEL.03-5466-1812）にお問い合わせ下さい。

| 情 報 提 供 一 覧                                                    | 発行日等  |
|----------------------------------------------------------------|-------|
| <b>&lt;出 版 物 等&gt;</b>                                         |       |
| 1.「医薬関連情報」7月号                                                  | 7月26日 |
| 2.「Regulations View」No.83                                      | 7月26日 |
| 3.「CONTENTS」No.1510～1514                                       | 毎週月曜日 |
| 4.「国内医薬品添付文書情報」No.196                                          | 7月19日 |
| 5.「日本医薬文献抄録集」02シリーズ版（3）                                        | 7月末予定 |
| 6.「医薬品副作用文献速報」8月号                                              | 7月末予定 |
| 7.「JAPIC NEWS」No.220                                           | 7月26日 |
| 8.「日本医薬品集DB」2002年7月版                                           | 7月末予定 |
| <b>&lt;速報サービス&gt;</b>                                          |       |
| 1.「各国副作用関連情報誌のコンテンツ速報FAXサービス」                                  | 随 時   |
| 2.「医薬関連情報 速報FAXサービス」No.345～348                                 | 毎 週   |
| 3.「JAPIC-Q（医薬文献・学会情報速報サービス）」                                   | 毎 週   |
| 4.「JAPIC Daily Mail（外国政府等の医薬品・医療用具の安全性に関する措置情報サービス）」No.283～305 | 毎 日   |



| <p style="text-align: center;"><b>デ ー タ ベ ー ス 一 覧</b></p> <p>※ 1 ～ 7 のデータベースのメンテナンス状況はJIPホームページ<br/>(<a href="http://Infostream.jip.co.jp/">http://Infostream.jip.co.jp/</a>) でもご覧いただけます。</p> | <p style="text-align: center;"><b>更 新 日</b></p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|
| <JIP e-InfoStreamから提供>                                                                                                                                                                        |                                                 |
| 1. 「JAPICDOC速報版（日本医薬文献抄録速報版）」                                                                                                                                                                 | 7 月 5 日                                         |
| 2. 「JAPICDOC（日本医薬文献抄録）」                                                                                                                                                                       | 7 月 5 日                                         |
| 3. 「ADVISE（医薬品副作用文献情報）」                                                                                                                                                                       | 7 月 4 日                                         |
| 4. 「MMPLAN（学会開催予定）」                                                                                                                                                                           | 7 月 1 0 日                                       |
| 5. 「SOCIE（医薬関連学会演題情報）」                                                                                                                                                                        | 7 月 5 日                                         |
| 6. 「NewPINS（新添付文書情報）」（月 2 回更新）                                                                                                                                                                | 7 月 3 日<br>7 月 1 8 日                            |
| 7. 「SHOUNIN（承認品目情報）」                                                                                                                                                                          | 7 月 2 2 日                                       |
| <JST JOISから提供>                                                                                                                                                                                |                                                 |
| 「JAPICDOC（日本医薬文献抄録）」                                                                                                                                                                          | 7 月中旬                                           |

当センターが提供する情報を使用する場合は、著作権の問題がありますので、その都度事前に当センター業務部（TEL.03-5466-1812）を通じて許諾を得て下さい。

===== 財団法人 日本医薬情報センター  
 <禁無断転載> 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2-12-15  
 JAPIC NEWS 1984.4.27 No.1 発行 長井記念館 3 階  
 毎月 1 回(最終金曜日)発行 TEL 03(5466)1811 FAX 03(5466)1814